

どうしちゃ
ったの？
火々里
さん

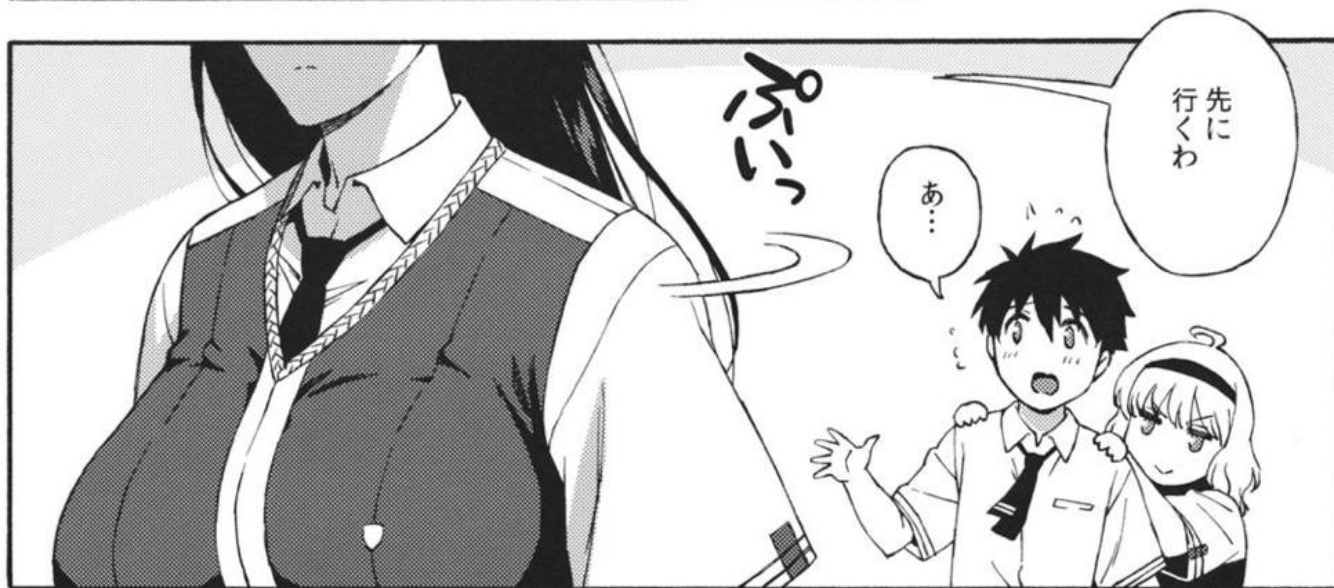


ForAdultOnly
成年向

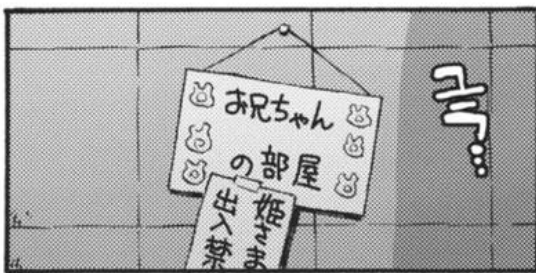








その夜









ちよ…
火々里さん

まじっ
そんなとこ

ひっぱつちや
だめだよっ

あせ
あせ



えな?!
えな?!

かかかか
火々里さん?!

はろっ

ちびっ
ちびっ
ちびっ

ちびっ
ちびっ
ちびっ



あん



ふえ?!
ボク



もしかして…
火々里さん
怒って…る?

いや、この目は
絶対怒ってる

怒ってるのに
何でこんな事
を?

僕が何か
しちやったん
だらうけど…
何だっけ?

思い出さ
なくちや…

思い出さなきゃ
いけないのに

火々里さん
の口が…

ちびっ
ちびっ
ちびっ

ちびっ
ちびっ
ちびっ



冷やかな表情とは
反対に
舌が激しく動いて、
飴玉みたいにちんちんを
舐り転がしてるっ

ふあっ…
皮の中に舌先が
押し入ってきたっ



まだ勃起する前の
小さいちんちんを
丸呑みして…



皮が…っ
皮がムケちゃ
…あ!!



火々里さんが頬を歪めながら
プルプルの唇で亀頭を含み、
さらさらの舌で裏筋を擦り上げ、
僕のちんちんを
執拗に責め続ける…



口の中が熱くて
頭の芯まで痺れて…
このままちんちんが
溶けてしまいそう…

だ…だめだっ…
早く…謝らなきゃ…
早く…早く…ッ
謝らなきゃ…いけなのに
キモチいいい…
どうしてっ…どうしてっ…



ごめんなさいっ

火々里さんっ!!

かっかっ

ちゅぽ

ぐく

ぐく



どうして怒らせ
ちゃったのか
分からないけどっ

きっと僕が
何かしちゃったん
だろうと思うからっ

ごっごめっ
ごめんなさいっ

ちゅぽん

ひん

ぽぽぽ

ズキョー



それより
何を怒ってた
のかなーって…

?



…私こそ
ごめんなさい

じゅん

多華宮くんは
何も悪くないわ



私、多華宮くん
悪い事して
しまったわね

多華宮君を
守るのが
私の使命なのに

えっ、いや
酷い事なんて

えきん

えきん





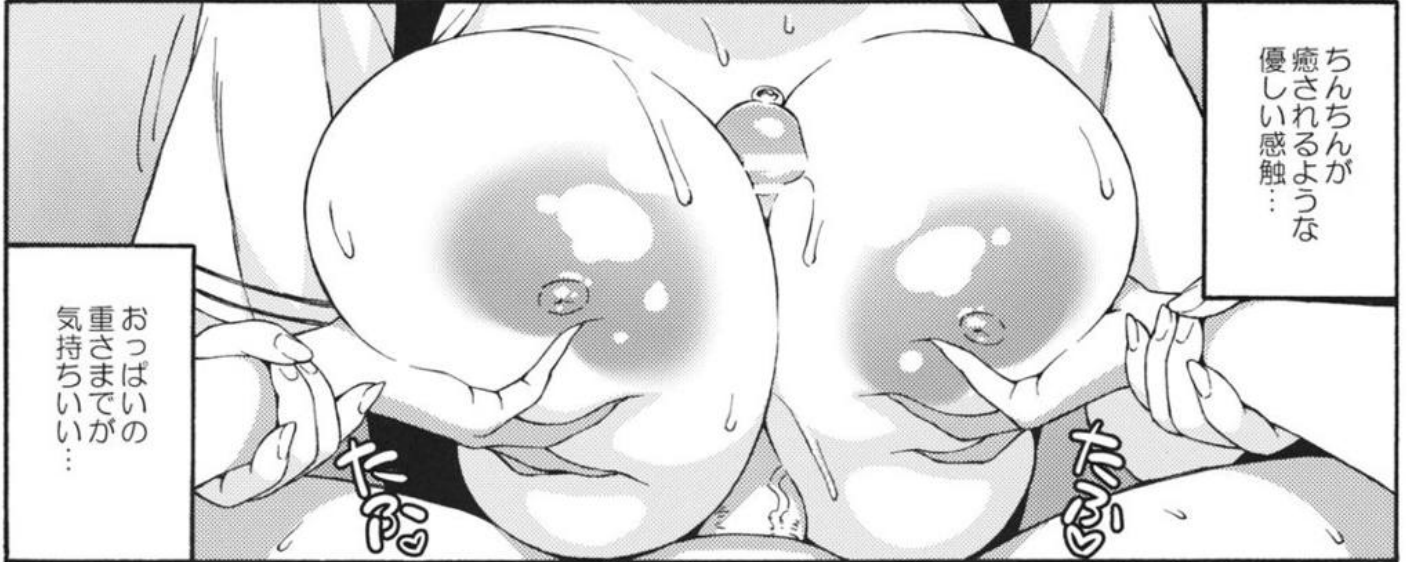
指が刺さりそうな
ほど柔らかい、
ふわふわ…



自分で
私のおっぱい
つかんでみて

うん

ギョ



ちんちんが
癒されるような
優しい感触…

おっぱいの
重さまでが
気持ちいい…



そう、
おっぱいを
力強く掴んで
揉みこむの

チンポを奥に
押し込んで、
いいわ
その調子よ



もつと乱暴に
動かしていいのよ
多華宮くん

え、でも

遠慮しないで
思いっきり
やってみて





おっぱいっ♡

気持ちいい♡

火々里さんの
おっぱい♡♡

火々里さんの
おっぱい♡

あああっ
火々里さんっ♡

止まらないっ



ガク
ガク
ガク

ガク
ガク
ガク

ガク
ガク
ガク

ガク
ガク
ガク

ガク
ガク
ガク



うっ
うっ
うっ

うっ
うっ
うっ



いいの、
いっばい出して
くれて嬉しいわ

うわっ
火々里さんの
おっぱい
汚しちゃって
ごめんなさいっ



うっ
うっ
うっ

ガク
ガク
ガク

ぬばあ♡



大変だわ
多華宮君

多華宮君の意思に
反して多華宮君を
傷つけてしまった
以上、

このままでは
私はあなたを守る
騎士の資格を
失ってしまうわ

※ウソ

いや、あの
傷ついては
ないけど...

ええっ?!

だから
再契約の為の
誓いの儀を

※ウソ

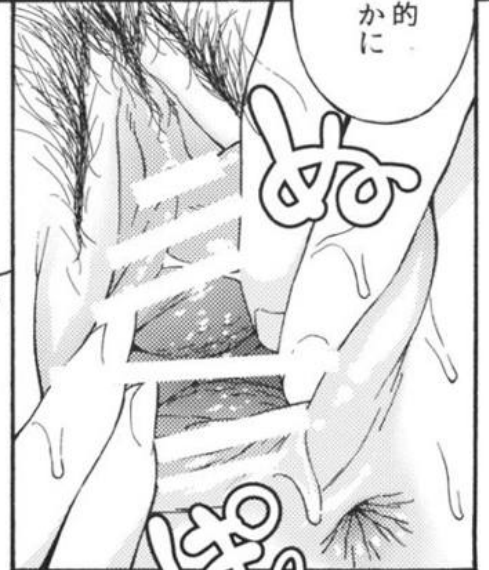
結ばなければ
ならないの

ここに

かかか
火々里さん?!

可及的
速やかに

だだだだ
だめだよ、
火々里さんっ
そんなっ



多華宮君、
時間が無いの



火々里さんの
全身が全力疾走
したように
熱く汗ばんでる

僕もサウナにいる
みたいに汗が
噴き出してくる



ううん：
火々里さんこそ
熱くないの？

魔力が上手く
コントロール
出来ないの



私は平気
心地いい
くらいよ

火々里さんの唇も、
柔らかくて、
…熱いっ



ごめんなさい
多華宮くん

熱いでしょう？

たっぴん たっぴん
たっぴん たっぴん

たっぴん たっぴん
たっぴん たっぴん

膣が燃えるように
熱くて、
別の生き物みたいに
僕のちんちんを絞り上げ
吸い込もうと動いてる

それに呼吸するようじ
僕もひたすら、
熱い肉の中に
ちんちんを突き刺し、
叩きつける

火々里さんの膣肉と
僕のちんちんが
溶けて融合してしまう
ような感覚に爆発しそうに
なる…もっツ
膣に…出したいッ



多華宮くん、
気持ちいい？

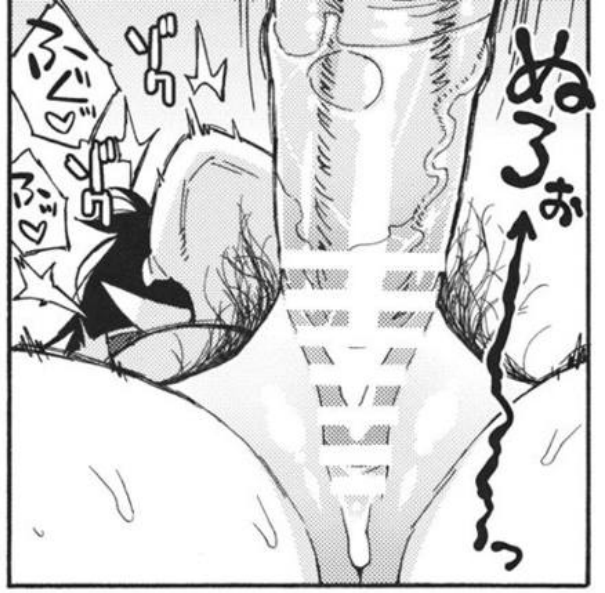
うんっ

気持ち
いいっ

気持ちいいよ
火々里さんっ

良かった、
私もよ







何でこんな
ところで
寝てるのよ!!



お兄ちゃんツ!!

失礼します!
姫様おはよう!
ございます!!



霞ちゃん
降ろしてよ!!

うわっ
って何?!



なんか
騒がしいな
ママさん
おかわり
下さい
はい
はい

私のお兄ちゃんが〇〇なわけがない。



あとがき

どうもです、甚六です。
お手にとって頂きありがとうございます。

2冊目のWCW本です。
アニメ化と聞いて気持ちが高まるあまり
また描いてしまいました。

火々里さんと多華宮君の距離感がたまらんです。
女の子の方が大きい身長差カップルも大好物。
巨乳なのに谷間も下乳も横乳も見せない
ガードの固さも想像力を刺激します。
妄想のエンジンも回転上がるというものです。

1冊目とは繋がりを持たせてませんので
前回をお読みでなくても楽しんで頂けるように
なってると思います。
が、
興味を持たれましたら
前作「火々里さんにおまかせ」も
よろしくお願ひします。

甚六

どうしちゃたの？火々里さん

■奥付■

発行 666PROTECT
発行日 2013年8月11日

HP <http://www16.ocn.ne.jp/~jingrock/>
mail jin6@beach.ocn.ne.jp
印刷 Comflex様

この本は成年向けです。18歳未満の方の購入、閲覧を禁じます



666PROTECT

遅刻するわ
おかわり
トカシ

